

静なる所にて念佛をもまぎれなくせんとおぼして君達にもさるべきこときこえ給世のこと
 としてつゐのわかれをのがれぬわざなめれど思なくさむかたありてこそかなしきをもさま
 すものなめれ又みゆづる人もなく心ほそげなる御有様どもをうちすて、んがいみじきこと
 されどもさばかりのことにさまたげられてながき世のやみにさへまどはんがやくなさかつ
 み奉る程だに思ひすつる世をさりなんうまろのこと、まろのべきことにはあらねど我身ひとつ
 にあらず過給にし御おもてふせにかるくしき心どもつかひ給ふな、おぼろげのよすがなら
 で人のことにうちなびきこの山里をあくがれ給な、たかう人にたがひたる契ことなる身と
 覺しなしてこゝによをつくしてんと思とり給へ、ひたぶるに思ひしなせば、ことにもあらず過
 ぬる年月成けり、まして女はさる方にたえこもりて、いちじるくいとおしげなるよそのもどき
 をおはざらんなんよかるべきなどの給ふ、略 中 おとなびたる人々めし出て、うしろやすくつか
 うまつれ、なにごとともとよりかやすく世にきこえあるまじききは、末のおとろへもつ
 ねのことに、まぎれぬべかめり、かゝるきはになりぬれば、人は何とも思はざらめど、うちおし
 うてさすらへん契かたじけなく、いとおしきことなんおほかるべき、物さびしくこゝろぼそき
 よをふるは、れいのことなり、むまれたる家のほどをきてのまゝ、にもてなしたらんなん、き、み
 みにも、わが心ちにも、あやまちなくばおぼゆべきに、ぎは、しく人かすめかんとおもふとも、そ
 のこゝろにもかなふまじきよとならば、ゆめく、かるく、しく、よからぬかたにもてなしきこ
 ゆななどの給、まだ曉に出給とて、こなたにわたり給て、なからんほどこゝろぼそくなおぼし
 わびそ、心ばかりはやりてあそびなどはし給へ、なにごととも思にえかなふまじき世をな、おぼし
 いれそなど、かへりみがちにて出給ぬ。

〔藤原家傳鎌足〕即位○天二年冬十月、稍纏沈痾、遂至大漸、常臨私第、親問所患、請命上帝、求効翌日而